

令和5年度第1回 高浜市地域公共交通会議 会議録

I 日時及び場所

日時 令和5年4月13日（木） 午後2時30分～

場所 高浜エコハウス 会議室A・B

II 出席者

1. 委員15名（欠席1名）
2. 事務局4名

III 開会

1. あいさつ（深谷副市長）

- ・高浜市は、県内では6番目くらいに狭い自治体。車なら15分くらいで横断できてしまう。そのような中で、定時定路線でいきいき号を運行してきたが、無駄な部分も見受けられる。
- ・令和5年度から、高浜市第7次総合計画がスタートした。その中でも、コミュニティバスについては地域交通の要となることから、問題意識を持ちながら見直しをしていこうと進めている。
- ・高浜市の人口は微増。外国人人口の割合は県内1位、約8%。高齢化率は、全国的に見れば高くはないが、将来的には高齢化は避けて通れない課題である。そういった状況も踏まえて検討しなければならない。

2. 委員自己紹介【資料1「高浜市地域公共交通会議委員名簿」】

- ・資料1の記載の順に自己紹介がされた。

3. 会長、副会長の選出【資料2「高浜市地域公共交通会議設置要綱」】

①会長の選出

- ・山本委員から山崎委員が推薦され、全会一致により山崎委員が会長となる。

②副会長の選出

- ・山上委員から山本委員が推薦され、全会一致により山本委員が副会長となる。

4. 地域公共交通会議について（中部運輸支局）【当日資料「活発で良い議論ができる会議のために」】

- ・資料「活発で良い議論ができる会議のために」をもとに説明された。

5. 報告案件

（1）いきいき号（市内コース）運行の背景・現状について【資料3～11】

①資料3、4について（事務局）

- ・デマンドバス導入事例について、動画で紹介。（長野県塩尻市、静岡県小山町）

◆質疑応答

《委員》

- ・今までやってきたことを精査して改善をすれば、過去の利用数までは戻すことができるのでは。改善をしたにもかかわらず、利用者数が減った要因を分析するべきでは。
- ・近年の利用者数の減少は新型コロナウイルス感染症の影響が大きいため、いきいき号の運行形態の話と切り分けた方がよいのではないかと考えている。近隣市でも、コロナ渦前より8割減っている。最低でもコロナ渦前までの状態まで戻ればよいのではないかと考えている。

《事務局》

- ・事業者様や市民の意見を聞きながら、ダイヤの改正やコースの変更を行ったが、このような結果になっている。
- ・令和4年度について、近隣市では回復傾向であるにもかかわらず、高浜市においては依然減少傾向であることもわかっている。

《委員》

- ・他市町では、公共交通を維持するため、ダイヤ改正、コース変更、イベントとの抱き合わせなど様々な努力を実施している。

《会長》

- ・便数を減らしている平成15年度に5千人くらい減っている。事務局としては、どのような見解を持っているか。

《事務局》

- ・平成15年に「停留所の数を増やしてほしい」という要望があったため停留所を増設した。その結果、循環する時間が増加したことが要因ではないかと考えている。

《会長》

- ・平成23年度は、刈谷市コースを設置したことにより、利用者合計としては、変化が見られない。市内コース利用者が減少している理由について、事務局は把握しているか。

《事務局》

- ・市の財政事情に関係しているが、3台のうち1台を刈谷市コースに充てた。限られた財源の中で運行していくために形態を変更したことが要因だと考えている。

《会長》

- ・令和元年度までにコース変更やダイヤ改正を行い、令和3年度には減便している。この状況を踏まえて、利用者が減少傾向である理由は。

《事務局》

- ・平成23年度から平成28年度までは増えたりもしているので、平成28年度から令和元年度は、想定内の減少であると考えている。

《会長》

- ・財源の縛りがある中で、できるだけ便利なサービスにしていきたいということだけれども、定時定路線でやり続けたところ減ってきてしまったということ。

《委員》

- ・令和元年度は、トータルの人数は平成28年度と変わらない。利用者のニーズにマッチしたことが要因と思われる。

②資料5、6について（事務局）

③資料7～9について（事務局）

④資料10、11について（事務局）

◆質疑応答

《委員》

- ・アンケート内容に偏りがなかったかやアンケート対象を無作為抽出で何名するか等について公共交通会議の中で検討や確認をし、公平性を担保した上で実施したか。

《事務局》

- ・前回の会議の意見を踏まえつつ、意見に対して回答するために実施した。
- ・今般のアンケートで、市民が本当に困っているという現状は、直接の声を拾ったということも踏まえて理解してほしいと思う。

《委員》

- ・デマンドバス以外に解決する方法は他にもあるはず。デマンド交通か今の公共交通かの二択で聞かれれば、デマンド交通と回答するに決まっている。
- ・一般の市民がデマンドバスの内容を理解して回答したとは思えない。デマンドバスありきで回答した結果、このような内容になったのではないか。「定時定路線で便を倍に増やす」「タクシー補助をする」だとかを提示すれば、アンケートの結果は変わっていたはず。

《委員》

- ・自分の施設の利用者に対して、特に説明を行わず、保護者と一緒に考えてアンケートに答えるようお願いし配布させてもらった。特に「デマンドがどうだ」という話はしておらず回答をもらっているため、少なくとも現状のいきいき号に対して不便さを感じているはず。現状の運行方法に不便さを感じているという皆さんの気持ちがわかっただけでも今回のアンケートはよかったのではないと思う。

《委員》

- ・私も、現状に問題がないと言っているわけではない。
- ・いつまでにどれくらい何を増やしたいか目標がない。それを踏まえた上でこの場で議論するべきだと思う。

《委員》

- ・資料11について、利用している方の利用頻度は確認できているか。たまに使う人と毎日使う人で意見が変わってくる可能性がある。
- ・また、現状の利用者がデマンド化に移行した場合に利用できるかも検討していかなければならないと思う。

《事務局》

- ・頻度については聞き取りできていない。

《委員》

- ・乗り継ぎがうまくいかないことがあると知人が言っていた。行きはいきいき号に乗っても、帰りはタクシーを使うということもよく聞く。

《会長》

- ・今の利用者を不便にさせてはいけない。今の利用者は、このバスがなくなってしまうたら移動できなくなってしまう人ばかりだと思う。多少不便になっても使えなくなるようにしないために一度声は聞いておくべきだと思う。

5. 協議案件

(1) 今後のコミュニティバス（市内コース）の方向性について【資料12】（事務局）

《会長》

- ・商工会から要望書が出ていということであるが、何かコメントあればお願いしたい。

《副会長》

- ・デマンドバスが導入され、商店の前に停留所が設置されれば、その商店へのアクセスが容易になり、商店の活性化につながるのではないかと考える。
- ・空白地帯に停留所を設置するという話の実現すれば、高齢者の外出支援につながると思う。
- ・いきいき号のルート変更を実施したとしても、すべての利用者に対して停留所を近くすることは、定時定路線では難しい。
- ・すべての地域を網羅するということを考えると、一つの選択肢としてデマンド交通があると思い、要望書を提出させてもらった。

《会長》

- ・バス停を増やして路線が長くなって不便になってきてしまう。一方で、ドライバーの負担等も考えると便数を減らさざるを得ない。市内全域をカバーしきれていないということも利用者減の要因であると考えられている。それらを踏まえると、定時定路線では限界があるだろうという考え。
- ・定時定路線でサービスレベルを向上させれば利用者は増えるかもしれないが、それは難しいということ。

◆質疑応答

《委員》

- ・デマンドバス以外にも、タクシー補助だとか方策はあると思う。
- ・バス停が遠いという意見については、バス停を増やせばいいと思うし、使われていないバス停は飛ばしていくなど、いろいろと方策を検討したうえで、デマンドバスに行き着いたのか、そのあたりの評価をしたのかがわからない。
- ・市の考えを一方的に伝えられても、我々にはデマンドバスに行き着いた背景がわからない。様々な方策のメリット・デメリットを整理して教えてほしい。
- ・目標値がないため、評価できない。利用者数を増やすことが目的か。

《事務局》

- ・利用者数も大事であるが、10年後を見据えると高齢化はもっと進む。我々は、この高齢者の足を確保したいということ。

《委員》

- ・足さえあれば、人が誰も乗らなくてもよいとなってしまっはおかしいから、何か指標が必要だと思う。

《事務局》

- ・利用者数もそうだが、利便性が高まっただとかが考えられる。

《委員》

- ・その他、利用者一人当たりのコストだとか、アンケートを取った際の満足度だとか、家から停留所までの距離だとか、そういった指標があって、目指す姿に近づいたかどうかを評価することができる。
- ・何をすればその目標に近づきレベルアップするのかなどを先に議論しないと、我々は、デマンドバスを導入していいのかわからない。

《事務局》

- ・資料にある課題を解決するには、定時定路線では解決できないということ。

《委員》

- ・例えば、現状、ある目的地まで5時間要しているというのも一つの指標。
- ・今まで、利用者数を指標にした結果、利用者が減っている。これが新しい施策を実施したことによって、利用者がまた減ったらこの事業は失敗とみるのか。

《事務局》

- ・この問題は、地域公共交通だけの話だけではなくてあらゆる施策につながっていく。例えば、元気な高齢者が増えれば医療費削減にもつながっていく。
- ・目先の問題を解決するためにやるのではない。財源に限りがある中で利便性を上げていきたい。
- ・タクシー事業者とは、共存していきたいと考えている。

《委員》

- ・行政がそのようにやっていくということに対しては賛同するが、進め方に問題がある。

《会長》

- ・潮田委員が言っている目標や指標は、地域公共交通計画を作ればおのずと決まってくる。また、地域公共交通計画は、市の総合計画にぶら下がるもの。岡島部長の発言のとおり、まちづくりのすべてに関わってくる。
- ・総合計画に合わせて、5年先の地域公共交通をどうするのかを考えていけばいい。運輸局が認める計画ではないにしろ、地域公共交通計画のようなものがあつた方がよい。

《委員》

- ・コースの変更等を検討する際には、いつもふるふるの意見も聞いてくれる。しかし路線やダイヤの変更だけでは限界が来てしまっている。
- ・指標を設けるという話もあったが、デマンドバスが導入されて今よりもスピーディに移動ができるようになれば、障がいのある人たちの行動範囲も広がると感じている。
- ・定路線で遠回りするのではなく、目的地にサッと行くことができる新しい形ができることを期待している。

《会長》

- ・市の方が会議で出された宿題をこなしつつ、市としてはデマンドでやっていくという方向で分析を進めていけばいいのではないかと思う。

《委員》

- ・ 様々なニーズをまとめていただき、「それを解決するためにデマンドしかない」、あるいは、「それを達成するためにはデマンド以外の方法もある」ということを検討した方がよいと考える。
- ・ 課題を踏まえた上で、「こういう公共交通にしたい」ということをまとめた方がよい。

《副市長》

- ・ 介護や保育、運転手など、どこの分野でも労働者不足というのは顕著に表れてきているし、そういった中でどのようにニーズを拾っていけばいいかという問題もある。
- ・ 市としては、バックキャストという考えのもと誰一人取り残さないという意気込みで臨んでいる。
- ・ 意見に合ったとおり、どんな形でおこなってもメリット・デメリットは必ずある。様々な手法のメリット・デメリットをお示しし議論を進めていくべきだと感じた。

《委員》

- ・ デマンドバスが一番いいということになれば、これで進めていけばいいと思うが、一度、別の方法で始めて失敗しても、また別の方法にしたり、やめたりするためのきっかけがなくなってしまうので、指標や目標は整理してほしい。
- ・ いきなりやるのではなく、実証実験や定時定路線とデマンドバスを併用するだとかはできないか。
- ・ アプリを使って車を呼ぶことを高齢者ができるのか懸念がある。現在の利用者が取り残されてしまうことが心配される。

《会長》

- ・ 弥富市でアイシンの「チョイソコ」というシステムの実証実験を6か月間している。
- ・ 行政の負担が大きくなるが、現状の定時定路線を維持しつつデマンドバスを運行しており、定時定路線からデマンドバスにどれだけ利用者が移行したのかも一つの指標となっている。定時定路線とデマンドバスの利用者のトータルで数字が伸びればよいという考えで実施している。
- ・ アイシンのシステムの面白いところは、地域の事業者にスポンサーになってもらい協賛金をもらうというところ。企業にもアンケート調査を実施して評価をすることも検討しているとのこと。
- ・ 会員になる必要はあるが、豊明市のように利用者を高齢者や障がい者に限定したりしていない。
- ・ 今後の進め方としては、評価指標を設定していきましょうということ。また、公共交通計画を作らなくても、目標値や指標を整理して簡単な計画を作って提示してもらえると理解してもらいやすいと思う。